

## 【めむろ未来ミーティング日程 12】

令和4年1月18日（火）

10:00～11:00

### 上芽室農業研修センター

■参加者 2人

■芽室町 副町長、環境土木課長、農林課長、商工労働課長、政策推進課長補佐

■記録 今森

#### ■対応・検討が必要な事項

なし

- 1 開会
- 2 副町長挨拶
- 3 町からの説明事項
  - ・公共施設等再配置構想について
  - ・まちなか再生の取り組みについて
  - ・3回目コロナワクチン予防接種について
- 4 意見交換

#### 【意見】

温水プール建て替えについて。単なるプールとしての建て替えなのか、集会所のような機能が付いてくるのかお聞きしたい。

#### 【副町長】

総合体育館との連携し、人が行き来するイメージを持っている。プールと体育館を繋げ、現在の勤労青少年ホームにトレーニングルーム機能を移す構想。集会施設は老朽化しているところもあるので、プールの整備に合わせて集会施設の機能を取り込めないか検討している。これについては地域の皆さんと話をする中でも様々な意見があり、決定事項ではない。

#### 【意見】

総合体育館自体も老朽化してきているが、安全なのか。補修・補強にも限界があるのでは。

#### 【副町長】

耐震補強をしているので、直ちに安全面に問題が出ることはないと思われる。問題になってくるのは水回りや暖房などの設備面であると考えている。

#### 【意見】

市街地の集会施設について。今後は集約していくという観点も必要ではないか。

#### 【副町長】

今は町内会単位くらいの規模で小規模な建物が多数ある。管理する人が大変というような声がある一方で、近くにあった方が良いという意見もある。以前、西地区コミュニティセンターを集約した際も最初は難航した。ただ、実際にやってみると今まで近くに住んでいても知らなかった人同士の交流が生まれるなど効果があった。十分な話し合いのもと、地域ごとの課題を整理し、検討していく必要があると感じている。

#### 【意見】

今後、新しい建物が増えていくとは考えにくい。統合などで減っていくのが確実だと思う。集会を行うにしても、地域の施設では入りきらないなら中央公民館の会議室を借りるなどの選択もある。統合するにしても、小規模で12、3人くらいが集まれる建物があれば十分なのではないかとも感じる。

#### 【副町長】

地域集会施設は地域のアイデンティティ、シンボルでもある。シンボルがなくなれば、コミュニティが消滅してしまう。全てなくしてしまうわけにはいけないと考えている。災害のような切羽詰まった状況になったときに、隣の人のことを知らないというようでは困る。そうい

った意味ではコミュニティが絶対に必要で残さなくてはならない。ただし、それが強制になってしまうと人が離れてしまうというも感じている。

【意見】

まちなか再生について。観光物産協会がまちの駅に移転するなどの動きがあるなかで、高校生をまちなかに誘導する試みがあっても良いと思う。

芽室の高校生は町外から通学している生徒も多く、芽室のまちなかに来ることはあまりない。高校生が関わることで、自分たちがまちを作る、参加しているという意識が醸成され、まちの活性化に繋がるのではないか。学生アンケートの結果でもファストフードやカフェの要望が出ている。せっかく再整備するなら、高校生が一緒になって考えられる取り組みがあると良いと思う。

【副町長】

今後、様々な場所でワークショップを予定している。まちなか再生は商業ありきというわけではなく、そこに行く用事・ストーリーを作らなくてはならない。実際使いたいもの、あったら良いものをボトムで積み上げていくという考えが根底にある。

実際、芽室高校に芽室から通っている生徒は20数名しかいないという状況。多くの生徒は列車で通学しており、大成駅で降り、大成駅から帰っていく。今さら大成駅をなくすことにもならないので、まちなかに誘導する用事を作らなくてはならない。

まちの駅やめむろ一どに集まった人をまちなかに流す、他に繋ぐ仕掛けも必要と考えている。

【意見】

商店街の方々と接点ができれば「あそこで買い物をしよう」「ここでご飯を食べよう」という考えになる。まずは関わりを持つことで町の活性化に対する気持ちも変わってくると思う。

また、商店街の閉店した店舗のシャッターをキャンパスにして、高校生たちに絵を描いてもらってはどうか。実際問題として閉店後も住宅として住んでいる方もいるので難しいところもあるが、友達や家族を呼び込むきっかけになるかもしれない。

【副町長】

今、ジモト大学では事業者とコラボレーションし商品開発を行っている。ジモト大学は芽室だけでなく、他町から通学している子どもたちも巻き込んでいる。そういった子達にも芽室の魅力を知ってもらい、発信して誰かを連れてきてもらうのも大事な取り組みだと思っている。

何か一つ事例があると次々と手を挙げる方が出てくる可能性もある。そういった意味で何かチャレンジするような仕組みも必要だと思う。

【意見】

高校生をまちなかに呼び込むというのであれば、学生証提示で市街地までのじゃがバスを無料にしてはどうか。芽室駅から帰るようになると、電車待ち時間にまちなかを見て回ることもあると思う。

高校生が何を求めているか、何があればまちなかに来たいと思うのか。そういったアンケートも効果的ではないか。

【副町長】

実際に高校生がいま何に困っていて、何をしたいのかキャッチしなければならない。大人だけで考えるのではなく、一緒に仕掛けづくりをしていきたい。商売ありきではなく、溜まり場、人が集まる場所が大事だと考えている。

【意見】

若い世帯で町のスーパーで買い物はするが、商店や施設はほとんど利用しないという人も少なくないので、そういった層はまちなか再生に関心が薄いのかもかもしれない。

【副町長】

役場がまちなか再生を掲げても、普段そこで生活している人が困っていなければピンとこないかもしれない。空き店舗も、所有者は何も困っていないこともある。そういった方を巻き込む方法を考えていかなければならない。

【意見】

新型コロナウイルスのワクチンについて。8か月となっているが、前倒しはあるのか。政府が前倒しを推奨した場合、芽室で対応できる体制は取れているのか。8か月のままでは、3回目接種が農繁期に重なってしまう人も多い。

【副町長】

前倒し接種が可能な体制は取れており、できるだけ前倒しで進めていきたいという考えである。1月14日に、去年の6月に2回目の接種が終わった方に3回目の接種案内を出している。ファイザー製・モデルナ製の接種組み合わせについて、様々な情報が出回っている。そのため、3回目のはどちらを接種するのか、自身で選択するような形にしたいと考えている。

【意見】

新嵐山について。スキー場の利用状況はどうか。

【副町長】

スキー場の利用者は増えていて、先日の土日も駐車場がいっぱいになるくらい入っていた。改革については賛否両論の意見をいただいている。もともと常連で利用していた方々からは、使いづらくなったとご意見をいただくこともある。一方、新たに新嵐山を利用される方からは、変わったことに対して好意的な評価をいただいている。今後もチャレンジし続ける中で、ネガティブな意見をいただくこともある。お聞きした中で、できる限り対応していきたいと思っている。

【意見】

最初の緊急事態宣言で施設が閉鎖されてしまったのは勿体なかった。再度宣言が出た場合、スキー場も止まってしまうのか。

【副町長】

昨年春に緊急事態宣言が出た際には、大きな打撃を受けた。秋には定員に制限をかけオープンした。

感染対策ができるかが問題なので、スキー場を全面的にクローズするとは考えにくい。

【意見】

町民を呼び込む取り組みとして、500円割引券を配るなどしてはどうか。町民でも今の新嵐山を知らない人もいる。まずは来て、体験してもらう機会が必要だと思う。また、サホロヤトマムに行く前の練習用スキー場として、新嵐山の利用を促進してはどうか。

【副町長】

割引について、ご意見として頂戴する。町民利用という点でいえば、今年は新嵐山で西中学校の宿泊研修が行われる。たき火などの野外体験のプログラムを予定している。西中学校ができたなら他の学校はどうか、と波及させることもできると思う。また、スキー学習で高校生も来ている。キャンプ場やファットバイクが見える位置にあるので、それもPRにはなっていると思う。新嵐山の社員の話を聞いても、新設したドッグランの利用も多く、客層は明らかに変わってきている。初心者向けのプログラムを組んで、ここで体験してもらって本格的なスキー場やキャンプ場に行ってもらえるような流れがあって良いと思う。まず入口として新嵐山に来てもらおうというのは大事だと思う。



11:00 終了